Japanese Patent Laid-open Publication No. HEI 8-195044 A

Publication date: July 30, 1996

Applicant: FUJITSU LIMITED

Title: Position Signal Demodulation Method and Position Sensitivity Determination

5 Method

20

(57) [Abstract]

[Object] To generate a position signal correctly even if a track number is read erroneously. Also to determine position sensitivity precisely.

10 [Configuration] A head position signal is generated by using two signals PosN, PosQ of triangular waveforms which are shifted one another by one-quarter in phase obtained by reading a signal pattern from a medium by a head 41, and the track number. That is, a position signal generation section 51a demodulates the position signal for the head taking into consideration which absolute value of PosN, PosQ is 15 larger than the other, signs of PosN, PosQ, the track number and an erroneous reading of that track number. A position sensitivity determination section 51b generates a sum signal of PosN, PosQ (PosN + PosQ) and/or a difference signal thereof (PosN - PosQ), positions the head at a point on the track where absolute values of PosN, PosQ are equal using at least either the sum signal or difference signal, measures a sum signal of the absolute values of PosN, PosQ at the time, and determines a position sensitivity assuming that measured value as a set value.

[0023] (b) Determination of Position Sensitivities

The position sensitivity determination section 51b generates a sum signal of signals 25 PosN, PosQ (PosN + PosQ) and/or a difference signal thereof (PosN - PosQ),

positions the head at a point on the track where absolute values of signals PosN, PosQ are equal using at least either the sum signal or difference signal, measures a sum signal of the absolute values of signals PosN, PosQ at the time

|PosN|+|PosQ|

and determines the position sensitivity assuming that measured value as a set value.

In this process, a saturation voltage as of when the head is positioned at a point where either signal PosN or signal PosQ becomes saturated is measured. Then an examination is carried out to see weather or not the absolute value of signal PosN or signal PosQ as of when the head is positioned at the point on the track where the absolute values of signals PosN, PosQ become equal is approximately equal to said saturation voltage, and in case of being approximately equal, a sum signal of the absolute values of signals PosN, PosQ at the time

| PosN | + | PosQ|

15

20

25

will not be used in the position sensitivity determination.

[0024] Through the constitution described above, the position sensitivity can be determined precisely and therefore positioning accuracy can be improved. Also the position sensitivity can be determined precisely even if signals PosN, PosQ saturate by excluding values near the saturation. Positioning accuracy can be improved as the position signal for the head is generated by using a value obtained by multiplying signal PosN and signal PosQ by a position sensitivity then adjusting it. A process of a position signal generation using signals PosN, PosQ and the track number is carried out in parallel with the process of the position sensitivity determination. Therefore, even if a head position moved into a saturation region or otherwise missed a target track, the head can be returned to its expected position by means of that position signal and the process of the position sensitivity determination can be continued.

[0025] In addition, the position sensitivity determination is performed with a head position control system of a file device being configured to operate stably with respect to a gain variation and being returned to the normal state of the head position control system after the position sensitivity determination is complete. Therefore, even when the gain varies significantly during position sensitivity determination control, control for determining the position sensitivity can be continued. A determined position sensitivity is stored in a fixed storage section which maintains its storage even when a power supply is removed and that position sensitivity will be read when the file device starts up to adjust signal PosN and signal PosQ. Consequently, once a position sensitivity has been determined, then control for determining position sensitivities can be omitted.

[0026] In addition, a track is divided into multiple sections, position sensitivities are measured and stored for each section, and signal PosN and signal PosQ are adjusted using the position sensitivity corresponding to the track position. Therefore, an accurate position control is possible as signals PosN, PosQ can be adjusted using a position sensitivity depending on a head position. In this process, position sensitivities measured for each section on a given medium are stored, a position sensitivity is measured at a specified section in a target file device, a difference between the measured position sensitivity and the stored position sensitivity of said section is calculated, stored position sensitivities of other sections are translated by that difference, and position sensitivities at each section in the target file device are obtained. Consequently, control for determining position sensitivities can be completed easily in a short time.

# [Description of Signs]

- 41 .. Head
- 42 .. Voice coil motor VCM
- 51 .. Microcontroller unit MCU
- 5 51a .. Position signal generation section
  - 51b .. Position sensitivity determination section
  - 51c .. Signal adjustment section
  - 55 .. Read/write circuit
- 10 [Figure 1]

Diagram showing a principle of the present invention

# (19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

# 特開平8-195044

(43)公開日 平成8年(1996)7月30日

(51) Int.Cl.4

識別記号

庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

G11B 21/08 21/10 E 9058-5D

R 8425-5D

審査請求 未請求 請求項の数11 OL (全 19 頁)

(21)出願番号

(22)出願日

特願平7-4011

平成7年(1995)1月13日

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番

1号

(72) 発明者 高石 和彦

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

宫士通株式会社内

(74)代理人 弁理士 斉藤 千幹

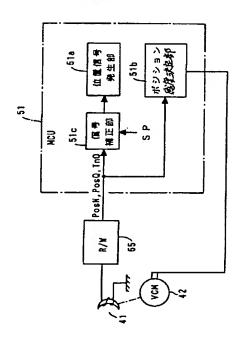
# (54) 【発明の名称】 位置信号復調方法及びポジション感度決定方法

### (57)【要約】

【目的】 トラック番号を読み誤っても正しく位置信号 を発生する。又、正確にポジション感度を決定する。

【構成】 ヘッド41により媒体状の信号パターンを読 み取って得られる三角波状の互いに 4分の1だけ位相が ずれた2つの信号 PosN、PosQ及びトラック番号を用い てヘッド位置信号を発生する。すなわち、位置信号発生 部51aは PosN, PosQの絶対値の大小、PosN, PosQの 符号、トラック番号及び該トラック番号の誤読み取りを 考慮してヘッドの位置信号を復調する。又、ポジション 感度決定部51bは、PosN, PosQの和信号 (PosN+Pos Q) 及び又は差信号 (PosN-PosQ) を発生し、和信号及 び差信号の少なくとも一方の信号を用いてPosN、PosQの 絶対値が等しくなるトラック上の地点にヘッドを位置決 めし、その時の PosN, PosQの絶対値の和信号を測定 し、該測定値が設定値となるようにポジション感度を決 定する。

# 本発明の原理説明図



【特許請求の範囲】

【請求項1】 媒体上にヘッド位置決め用の信号パター ンとトラック番号を記録しておき、ヘッドにより該信号 パターンを読み取って得られる三角波状の互いに4分の 1だけ位相がずれた2つの信号 PosN, PosQ及びトラッ ク番号を用いてヘッド位置信号を発生するファイル装置 の位置信号復調方法において、

信号 PosN, PosQの絶対値の大小、信号 PosN, PosQの符 号、トラック番号及び該トラック番号の誤読み取りを考 慮してヘッドの位置信号を復調する論理を作成し、該論 理に基づいてヘッド位置信号を復調する位置信号復調方 洗.

【請求項2】 信号 PosNの絶対値が信号 PosQの絶対値 より小さい場合には、①信号PosNの極性を信号 PosQの 極性がプラスの時に反転させてトラック番号に加算して 位置信号を発生し、②信号 PosQの極性がマイナスの時 には反転せずに、トラック番号に加算して位置信号を発 生し、③又、トラック番号の誤読み取りを検出した時 は、前記位置信号を信号 PosN, PosQの符号に応じて1 増減し、あるいは1減少して位置信号を発生し、 信号 PosQの絶対値が信号 PosNの絶対値より小さい場合 には、信号 PosQにトラック番号の偶数、奇数に応じて 0. 5又は-0. 5を加算し、加算により得られた信号 の極性を信号 PosNがプラスの時には反転せず、マイナ スの時に反転してトラック番号に加算して位置信号を発 生することを特徴とする請求項1記載の位置信号復調方 烘

【請求項3】 前記信号 PosN及び信号 PosQにポジショ ン感度を乗算して補正した値を用いて位置信号を発生す る請求項1又は請求項2記載の位置信号復調方法。

【請求項4】 媒体上にヘッド位置決め用の信号パター ンとトラック番号を記録しておき、ヘッドにより該信号 パターンを読み取って得られる三角波状の互いに4分の 1だけ位相がずれた2つの信号 PosN, PosQにポジショ ン感度を乗算した信号及びトラック番号を用いてヘッド 位置信号を発生するファイル装置のポジション感度決定 方法において、

信号 PosN, PosQの和信号 (PosN+PosQ) 及び又は差信 号 (PosN-PosQ) を発生し、和信号及び差信号の少なく とも一方の信号を用いて信号 PosN, PosQの絶対値が等 しくなるトラック上の地点にヘッドを位置決めし、

その時の信号 PosN, PosQの絶対値の和信号

| PosN | + | Pos0 |

を測定し、

該測定値が設定値となるようにポジション感度を決定す ることを特徴とするポジション感度決定方法。

【請求項5】 前記信号 PosN及び信号 PosQにポジショ ン感度を乗算して補正した値を用いてヘッドの位置信号 を発生する請求項4記載のポジション感度決定方法。

和する地点にヘッドを位置決めした時の飽和電圧を測定 し、

信号 PosN, PosQの絶対値が等しくなるトラック上の地 点にヘッドを位置決めしたときの信号 PosNまたは信号P osQの絶対値が前記飽和電圧に略等しいか調べ、

略等しい場合には、その時の信号 PosN, PosQの絶対値 の和信号

| PosN | + | PosQ |

をポジション感度の決定に使用しないことを特徴とする 請求項4記載のポジション感度決定方法。

【請求項7】 前記ポジション感度の決定処理と並行し て、信号 PosN、 PosQ及びトラック番号を用いて位置信 号を発生する処理を行ない、

ヘッド位置がずれた場合、該位置信号によりヘッドを所 期位置に戻すことを特徴とする請求項4記載のポジショ ン感度決定方法。

【請求項8】 ゲイン変動に対して安定に動作するよう にファイル装置のヘッド位置制御系を構成してポジショ ン感度の決定を行ない、

ポジション感度決定後に通常のヘッド位置制御系に戻す 20 ことを特徴とする請求項4記載のポジション感度決定方 法。

【請求項9】 決定したポジション感度を電源が切断さ れても記憶状態を保持する固定記憶部に記憶し、

ファイル装置の起動時に該ポジション感度を読み出して 信号 PosN及び信号 PosQを補正することを特徴とする請 求項5記載のポジション感度決定方法。

【請求項10】 トラックを複数の区画に分割し、各区 画毎にポジション感度を測定して記憶し、

トラック位置に応じたポジション感度を用いて信号 Pos N及び信号 PosQを補正することを特徴とする請求項5記 載のポジション感度決定方法。

【請求項11】 所定の媒体について測定した各区画毎 のポジション感度を記憶しておき、

対象ファイル装置の所定区画におけるポジション感度を

測定したポジション感度と記憶してある前記区画のポジ ション感度の差を演算し、

記憶してある他の区画のポジション感度を該差分平行移 40 動して対象ファイル装置の各区画におけるポジション感 度を求める請求項10記載のポジション感度決定方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明はファイル装置における位 置信号復調方法及びポジション感度決定方法に係わり、 特に媒体上にヘッド位置決め用の信号パターンを記録し ておき、ヘッドにより該信号パターンを読み取って得ら れる三角波状の互いに4分の1だけ位相がずれた2つの 信号 PosN, PosOを用いてヘッド位置信号を発生する位 【請求項6】 前記信号 PosN及び信号 PosQの一方が飽 50 置信号復調方法及び該信号 PosN, PosQを補正するため

3

のポジション感度決定方法に関する。

#### [0002]

【従来の技術】光ディスク装置、磁気ディスク装置等の ファイル装置においては、ヘッドをディスク上の所定位 置に位置決めしてデータのリード/ライトを行なうよう になっている。図21は磁気ディスク装置の構成図であ り、11はカバー、12はベースである。スピンドル機 構13には所定枚数の記録媒体である磁気ディスク14 が所定間隔で並設されて取り付けられ、磁気ディスク1 4の近傍には、回転軸(シャフト)15により回動自在 に構成されたアクチュエータアッセンブリ16が設けら れている。アクチュエータアッセンブリ16は、回転軸 15に関して一方が駆動部(アクチュエータ) 17、他 方がキャリッジアーム18となっており、駆動部17に はボイスコイルモータを構成するボイスコイル19が設 けられている。キャリッジアーム18は磁気ディスク1 4の枚数に応じた数が設けられ、その先端取付け部20 の両面又は片面に磁気ヘッドアッセンブリ21が装着さ れ、磁気ヘッド22を磁気ディスク14の半径方向所定 位置に位置決めするようになっている。

【0003】磁気ディスク14のディスク面には多数の トラックが形成され、各トラックは複数のセクタに分割 されている。それぞれのセクタは図22に示すようにサ ーボ領域SVAとデータ領域DTAを備え、サーボ領域 SVAにはセクタマーク(サーボマーク) SM、トラッ ク番号TNO. 、位置情報パターンPPTが記録されて いる。ヘッドが半径方向に移動しながら読み取った位置 情報パターン信号(ヘッド出力)を復調部に通すことに ことにより、図23の実線で示すようにトラックを横切 る方向に交番するπ/2(トラック幅の1/2であり、 1周期2トラックとすると1/4トラック) 位相のずれ た2つの三角波状の信号PosNとPosQが得られる。又、Po sN、PosQ及びこれらの反転信号\*PosN、\*PosQを順に選 択することにより鋸波状の位置偏差信号(トラック中心 からのオフセット信号) Paを発生することができる。 【0004】図24はヘッドを目標位置に位置決めする ためのサーボ回路の構成図である。13はスピンドルモ ータ、14はスピンドルモータにより回転される磁気デ ィスク、19は磁気ヘッドを半径方向に移動させる回転 型のボイスコイルモータ(VCM)、22は磁気ディス ク14のデータをリード/ライトする磁気ヘッド、23 は磁気ヘッド22が読み取った信号レベルを一定にする AGC回路である。24は位置信号復調部であり、磁気 ヘッド22が読み取った位置情報パターン信号より2つ の互いにπ/2位相が異なる信号PosN, PosQを復調して 出力する。25は復調部から出力される信号PosN, PosQ をデジタル値に変換するADコンバータ、26は後述す るサーボ制御を行なって、VCMを駆動するための電流 指令値を出力するマイクロ・コントローラ・ユニット

変換するDAコンバータ、28はVCM駆動回路である。尚、AGC回路23、位置復調部24、AD変換器25はリード/ライト回路を構成する。

【0005】MPU26は内蔵のファームウェアにより サーボ制御を行なって、VCMを駆動するための電流指 令値を出力する。ファームウェアの処理を機能的に分割 してブロック化した構成が図24には示されている。2 6 a は信号PosN、PosQ及びトラック番号を用いてヘッド の現トラック位置を検出する位置検出部、26 b は信号 PosN, PosQを微分して実速度 Vaを検出する速度検出 部、26cはヘッドの現トラック位置と目標トラック位 置までのトラック数に基づいて所定の指令速度Vcを出 力する指令速度発生部、26dは指令速度Vcと実速度 Vaの差信号Vdを出力する速度差演算部、26eは信 号PosN、PosQ及びこれらの反転信号\*PosN、\*PosQを順 に選択して図23 (B) に示すオフセット信号 (位置偏 差信号) Paを出力する信号選択部、26fはヘッドが 目標トラック上に到達するまで速度差演算部26dから 出力される速度偏差信号Vdに応じた電流指令値を出力 し、ヘッドが目標トラック上にきたとき、位置偏差信号 Paに応じた電流指令値を出力する切り替え部である。 26gはポジション感度決定モードにおいて信号 Pos N、PosQを用いてポジション感度Spを決定するポジシ ョン感度決定部である。ポジション感度決定部26gで 得られたポジション感度Spを通常の位置決め制御時に 信号 PosN、PosQに乗算して該信号PosN、PosQの信号振幅 を補正する。尚、ポジション感度SpをAGC回路23 a に入力して信号PosN、PosQの振幅を補正することもで

【0006】目標トラックが入力されると、指令速度発 生部26cは現トラック位置から目標トラック位置まで のトラック数に基づいて指令速度Vcを発生する。切り 替え部26 f は速度偏差信号 V d を選択し、ボイスコイ ルモータ19の電流指令値として出力する。 該電流指令 値はDA変換された後、ボイスコイルモータ19に入力 する。これにより、ボイスコイルモータ19は回転を開 始し、ヘッド22を目標トラックに向けて指令速度で移 動させる。ヘッド22は移動しながらサーボ領域に記録 されている位置情報パターン信号PPTを読み取って出 力する。位置情報パターンPPTの読み取り信号(ヘッ ド出力) は位置信号復調部24に入力され、信号PosN, PosQが復調されてMCU26に入力する。この信号Pos N, PosQ、トラック番号を用いて、位置検出部26aは ヘッドの現トラック位置を更新し、速度検出部26bは ヘッドの実速度を検出し、又、信号選択部26 e は位置 偏差信号Paを出力する。

をデジタル値に変換するADコンバータ、26は後述す 【0007】指令速度発生部26cは再び現トラック位 るサーボ制御を行なって、VCMを駆動するための電流 置から目標トラック位置までのトラック数に基づいて指 旨令値を出力するマイクロ・コントローラ・ユニット 令速度Vcを発生し、速度差演算部26dは指令速度と (MCU)、27はデジタルの電流指令値をアナログに 50 実速度の差である速度偏差信号Vdを出力する。切り替

え部26fは速度偏差信号Vdを選択して出力し、以 後、前述と同様の動作が繰り返されてヘッドは目標トラ ックに接近する。ヘッドが目標トラック上に到来する と、切り替え部26 f は速度制御から位置制御に切り替 え、信号選択部26eから出力される位置偏差信号Pa を選択し、電流指令値として出力する。該電流指令値は DA変換された後、ボイスコイルモータ19に入力す る。これにより、ボイスコイルモータ19はヘッドをト ラック中心に位置させるように回転する。以後、位置偏 差信号Paによる位置決め制御が行なわれ、最終的にへ ッドは目標トラックの中心に位置決めされる。そして、 以後、トラック中心にヘッドが位置するようにトラッキ ングサーボ制御が行なわれる。

【0008】以上では、あたかも連続的にサーボ制御が 行なわれるように説明したが、実際は、MCU26は所 定のサンプリング時間毎に離散的に上記サーボ制御を行 なう。すなわち、各セクタのサーボ領域SVAにサーボ マークSMが記録されており、該サーボマークが読み取 られる毎にMCU26にサーボ割込みが発生する。これ により、MCU26は信号PosN, PosQを取り込み、該信 号に基づいて上記処理を行なう。すなわち、サーボ割込 みの周期がサンプリング周期となり、該サンプリング毎 に離散的なサーボ制御が行なわれる。

#### [0009]

### 【発明が解決しようとする課題】

# (a) 第1の課題

図25は位置信号の復調論理を説明するための信号説明 図、図26は位置信号の復調のデコード表である。図2 5において、31は信号PosN、32は信号PosQ、33は 位置偏差信号(オフセット信号) Paであり、横方向に トラック番号をとり、縦方向に各信号出力をトラック中 心(0.0)からの位置に換算した値(-0.5~0.5)をとってい る。例えば、信号 PosN、PosQのピーク値を±2.0ボルト すれば、PosN、PosQに1/4を乗算して得られた値が縦軸 に取ってある。この1/4は後述するポジション感度であ

【0010】従来は予め図26に示す復調のデコード表 を作成し、MCUのプログラムによりPosN、PosQ及びト ラック番号を用いて位置信号を生成している。すなわ ち、①図25に示すように、連続する2つのトラックを 40 1/4トラック幅づつ(1)~(8)の8区画に分割し、②そ れぞれの区画において信号PosN、PosQの絶対値の小さい 方を選択すると共に、③極性を適宜変えてつなげること により、トラック幅の周期で交番する右上がり鋸歯状の オフセット信号Paを作り、④このオフセット信号にト ラック番号を加算して位置信号(基準位置からの絶対位 置信号)を発生する。尚、信号PosN、PosQの絶対値の小 さい方を用いてオフセット信号を生成する理由は、信号 PosN、PosQは絶対値が大きくなると飽和やその他の理由 で非線形になり、位置と信号PosN、PosQの関係が直線的 50 がある。すなわち、

にならなくなるからである。

【0011】以上のように、従来は図26のデコード表 を用いて位置信号を発生するが、トラック番号を正しく 読み取れたことを前提にしている。換言すれば、従来の 位置信号復調方法はトラック番号の誤読み取りを何も考 慮していない。ヘッドは移動しながらセクタのサーボ領 域より位置信号パターン及びトラック番号を読み取る。 このため、隣のトラックのトラック番号を現トラックの トラック番号と認識してしまう場合がある。かかる場合 には位置信号が間違って復調されるため、正確な位置制 御、速度制御ができなくなる。

#### 【0012】(b) 第2の課題

リード・ライト回路では、ADコンバータ25を通して 信号 PosN、PosQを取り込んでいるが、取り込んだ値を MCU26の中で使用するトラックの単位に変換する必 要がある。そこで、このための変換係数(ポジション感 度)を求め、該変換係数を信号 PosN、PosQに掛けなけ ればならない。このポジション感度の値はヘッドのコア 幅に依存するから、同一のファイル装置内でもヘッド毎 に異なる値を持つ。又、ポジション感度はリード・ライ ト回路におけるAGC回路23のゲイン変動、ADコン バータ25のリファレンス電圧の変動、リードヘッドの コア幅、トラック幅に主に依存する。例えば、ヘッドの コア幅が小さくなれば、ポジション感度は小さくなり、 又、トラック幅が小さくなればポジション感度は大きく なる。このポジション感度が過多だったり、過小だった りすると、位置信号の作成に際して信号 PosN、PosQの 繋がりが悪くなり、図27に示すように復調した位置信 号に段差が生じることになる。尚、点線は理想的なカー ブである。位置信号が不連続になると、位置制御ががた つき、振動や異常音が発生し、しかも、位置決めを速や かに行なうことができない。以上から、従来よりポジシ ョン感度決定のために幾つかの方法が提案されている。

#### 【0013】①第1の方法

第1の方法は、基本的な方法であり、以下のようにして ポジション感度を求める。すなわち、

- (1) 偶数・奇数トラックの±0. 25トラックの計4箇 所(図25のポジションa, b, c, dの位置であり、 信号 PosN、PosQの絶対値が等しくなる点)の付近に、 信号 PosNで位置決めする。
- (2) ついで、PosN、PosQの絶対値を取り、両者の差が前 もって定めた範囲内にあるもののみを測定値として採用 し、|PosN|の値を格納する。
- (3) 全箇所での測定が終了すれば、測定結果の平均値を とり、0.25トラックでの|PosN|の値として、ポジシ ョン感度Spを例えば、次式

S p = 0.25/|PosN|

により求める。

【0014】しかし、この第1の方法には以下の問題点

- (1) ポジション感度が補正されていない段階で±0.2 5トラックへと位置決めを行うので、正確に±0.25 トラック中心で位置決めを行っている保証がない。
- (2) ±0. 25トラック付近では、信号 PosNは傾きを もっているので、常に変動する。
- (3) 信号PosN、PosQの絶対値がある範囲内であるという 条件を必ず満足しなければ測定ができない。

#### 【0015】②第2の方法

図28は第2のポジション感度決定方法の説明図であり、以下のようにしてポジション感度を求める。すなわち、

- (1) ボイスコイルモータVCMをほぼ等速度で走らせる。
- (2) 過去 2 サンプリング分の信号 PosQ(あるいはPosN) の値(Y[k-2], Y[k-1]) をメモリに確保しておく。
- (3) 位置信号生成のための基準が信号 PosNからPosQ に、あるいはその逆に移行した時点での信号PosNの値(Y [k])をメモリに確保する。
- (4) 過去2サンプリング分の値Y[k-2], Y[k-1]より信号 PosQの直線を計算し、又、現在の値Y[k]を通り前記信号 PosQの傾きと逆の傾きを有する信号 PosNの直線を計算し、両直線の交点を求める。すなわち、ヘッドが偶数・奇数トラックの±0.25トラックに位置した時の信号 PosN又は信号PosQの値を求める。
- (5) しかる後、交点電圧Vcとすれば、ポジション感度 を例えば、次式

S p = 0.25 / |Vc|

により求める。

【0016】しかし、この第2の方法には以下の問題点がある。すなわち、

- (1) まだ感度補正がされていないので、速度制御の基準となる位置が不正確。したがって速度も等速度であることが保証されない。
- (2) ある速度をもって移動しているので、速度が大きければPosN、PosQの飽和領域に入る可能性があり、値が不正確になる。

# 【0017】③第3の方法

図29は第3のポジション感度決定方法の説明図であり、以下のようにしてポジション感度を決定する。すなわち、

- (1) V CMをほぼ等速度で走らせる。
- (2)位置信号発生の基準が、信号 PosNとPosQとの間で切り替わった時に、信号PosNと信号PosQとの絶対値の和|PosN|+|PosQ|を測定する。すなわち、ヘッドが偶数・奇数トラックの $\pm$ 0. 25トラックに位置した時の信号PosNと信号PosQとの絶対値の和|PosN|+|PosQ|を測定する。この絶対値の和は理想的には一定値( $\pm$ 0.5)になるはずである。
- (3) しかる後、ポジション感度を例えば、次式 S p = 0.5/(|PosN|+|PosQ|)

により求める。しかし、この方法においても、方法2と 同様の欠点がある。以上のように従来の方法では正確な ポジション感度補正が実現できない。このため新たな感 度決定のアルゴリズムが必要になる。

【0018】以上から、本発明の第1目的は、トラック番号を読み誤っても正しく位置信号を発生することができる位置信号復調方法を提供することである。本発明の第2の目的は位置信号発生用の論理を簡単にしてメモリの節約ができる位置信号復調方法を提供することである。本発明の第3の目的は、正確にポジション感度を決定でき、従って、位置決め精度の向上を図ることができるポジション感度決定方法を提供することである。本発明の第4の目的は、信号 PosN、PosQが飽和しても飽和する付近の値を除外することにより正確にポジション感度決定できるポジション感度決定方法を提供することである。

【0019】本発明の第5の目的は、ポジション感度決定制御に際してヘッドが飽和領域へ移動しても、あるいは対象トラックから外れても、ヘッドを所期位置に戻してポジション感度決定のための測定ができるポジション感度決定方法を提供することである。本発明の第6の目的は、ポジション感度決定に際して大きなゲイン変動が生じてもサーボが不安定にならず、ポジション感度の決定ができるポジション感度決定方法を提供することである。本発明の第7の目的は、一度ポジション感度を決定すれば以後電源投入毎にポジション感度を決定すれば以後電源投入毎にポジション感度を決定することである。本発明の第8の目的は、トラックの属する区画に応じてポジション感度を簡単に決定できるポジション感度決定方法を提供することである。

#### [0020]

【課題を解決するための手段】図1は本発明の原理説明図である。41はヘッド、42はボイスコイルモータVCM、51はマイクロ・コントローラ・ユニットMCU、55はリード・ライト回路である。MCU51において、51aは位置信号発生部、51bはポジション感度決定部、51cは信号 PosN、PosQにポジション感度Spを乗算する信号補正部である。

40 [0021]

【作用】

(a) 位置信号の復調

媒体上にヘッド位置決め用の信号パターンとトラック番号を記録しておき、ヘッド41により該信号パターンを読み取って得られる三角波状の互いに4分の1だけ位相がずれた2つの信号 PosN, PosQ及びトラック番号を用いてヘッド位置信号を発生する。この位置信号発生に際して、位置信号発生部51aは信号 PosN, PosQの絶対値の大小、信号 PosN, PosQの符号、トラック番号及び該トラック番号の誤読み取りを考慮してヘッドの位置信

20

号を復調する。すなわち、信号 PosNの絶対値が信号 Po sQの絶対値より小さい場合には、①信号PosNの極性を信 号 PosQの極性がプラスの時に反転させてトラック番号 に加算して位置信号を発生する。②信号 PosQの極性が マイナスの時には反転せずに、トラック番号に加算して 位置信号を発生する。③又、トラック番号の誤読み取り を検出した時は、前記位置信号を信号 PosN, PosQの符 号に応じて1増減し、あるいは1減少して位置信号を発 生する。一方、信号 PosQの絶対値が信号 PosNの絶対値 より小さい場合には、信号 PosQにトラック番号の偶 数、奇数に応じて0.5又は一0.5を加算し、加算に より得られた信号の極性を、信号 PosNがプラスの時に は反転せず、マイナスとの時に反転してトラック番号に 加算し、位置信号を発生する。

【0022】以上のようにすれば、トラック番号を読み 誤っても正しく位置信号を発生することができ、又、位 置信号発生用の論理を簡単にしてメモリの節約ができ る。更に、信号 PosN及び信号 PosQにポジション感度を 乗算して補正した値を用いて位置信号を発生すれば、位 置決め精度を向上することができる。

【0023】(b) ポジション感度の決定 ポジション感度決定部51bは、信号 PosN, PosQの和 信号 (PosN+PosQ) 及び又は差信号 (PosN-PosQ) を発 生し、和信号及び差信号の少なくとも一方の信号を用い て信号 PosN, PosQの絶対値が等しくなるトラック上の 地点にヘッドを位置決めし、その時の信号 PosN. PosQ

# の絶対値の和信号 | PosN | + | PosQ |

を測定し、該測定値が設定値となるようにポジション感 度を決定する。この場合、信号 PosN及び信号 PosQのー 30 方が飽和する地点にヘッドを位置決めした時の飽和電圧 を測定しておく。そして、信号 PosN, PosQの絶対値が 等しくなるトラック上の地点にヘッドを位置決めしたと きの信号 PosNまたは信号PosQの絶対値が前記飽和電圧 に略等しいか調べ、略等しい場合には、その時の信号 P osN, PosQの絶対値の和信号

#### | PosN | + | PosQ |

をポジション感度の決定に使用しないようにする。

【0024】以上のようにすれば、正確にポジション感 度を決定でき、従って、位置決め精度の向上を図ること 40 ができる。又、信号 PosN、PosQが飽和しても飽和する 付近の値を除外することにより正確にポジション感度を 決定することができる。更に、信号 PosN及び信号 PosQ にポジション感度を乗算して補正した値を用いてヘッド の位置信号を発生することにより位置決め精度を向上す ることができる。又、ポジション感度の決定処理と並行 して、信号 PosN、 PosQ及びトラック番号を用いて位置 信号を発生する処理を行なう。このようにすれば、ヘッ ド位置が飽和領域へ移動しても、あるいは対象トラック

所期位置に戻すことが可能となり、引き続きポジション 感度の決定処理を行なうことができる。

【0025】更に、ゲイン変動に対して安定に動作する ようにファイル装置のヘッド位置制御系を構成してポジ ション感度の決定を行ない、ポジション感度決定後に通 常のヘッド位置制御系に戻すようにする。このようにす れば、ポジション感度決定制御中にゲインが大幅に変動 する事態が生じてもポジション感度決定の制御を継続す ることができる。又、決定したポジション感度を電源を 切断しても記憶状態を保持する固定記憶部に記憶し、フ ァイル装置の起動時に該ポジション感度を読み出して信 号 PosN及び信号 PosQを補正する。このようにすれば、 一度ポジション感度を決定しまえば、以後、ポジション 感度を決定する制御を省略することができる。

【0026】更に、トラックを複数の区画に分割し、各 区画毎にポジション感度を測定して記憶し、トラック位 置に応じたポジション感度を用いて信号 PosN及び信号 PosQを補正する。このようにすれば、ヘッド位置に応じ たポジション感度を用いて信号 PosN、PosQの補正がで き、正確な位置制御を行なうことができる。この場合、 所定の媒体について測定した各区画毎のポジション感度 を記憶しておき、対象ファイル装置の所定区画における ポジション感度を測定し、測定したポジション感度と記 憶してある前記区画のポジション感度の差を演算し、記 憶してある他の区画のポジション感度を該差分平行移動 して対象ファイル装置の各区画におけるポジション感度 を求める。このようにすれば、ポジション感度の決定制 御を短時間で簡単に行なうことができる。

# [0027]

### 【実施例】

#### (A) 本発明の磁気ファイル装置の構成

図2は磁気ファイル装置の構成図であり、51はマイク · ロ・コントローラ・ユニット (MCU) であり、図24 のMCU26と同様のサーボ制御、その他の制御を行な う。MCU51にはROM、RAMが内蔵され、ROM には図3に示すように、①サーボ制御用のサーボプログ ラムSVPR、②ポジション感度決定用のプログラムP SDP、③インタフェースプログラムIFPRを始めと する各種プログラムが記憶されている。又、各種パラメ ータも記憶されており、該ROMがフラッシュメモリ等 の書替え可能なROMの場合には、決定されたポジショ ン感度SPも記憶される。MCU51は、サーボプログ ラムSVPRに従ってサーボ制御処理を実行してボイス コイルモータVCMやスピンドルモータSPM等の機械 部品を制御する。サーボ制御処理とは、①信号 PosN、P osQをポジション感度に基づいて補正する処理、②位置 信号の発生処理、③指令速度の発生処理、④ボイスコイ ルモータVCMの電流計算処理、⑤スピンドルモータの 回転速度制御処理等である。又、MCU51は、ポジシ をはずれた場合であっても、該位置信号によりヘッドを 50 ョン感度決定プログラムPSDPに従って後述するポジ

ション感度の決定を行なう。インタフェースプログラム IFPRは、リード・ライト回路55の設定制御やハードディスクコントローラ53を操作して外部装置との間でデータ、コマンドの送受を行なう。

【0028】52は外部RAM、53はホスト装置等とインタフェースを介して接続されたハードディスクコントローラHDC、54はがHDC用のバッファRAM、55はヘッドと接続されてデータの読み/書き、信号PosN、PosQ及びトラック番号の読み取り等を行なうリード・ライト回路、56はボイスコイルモータVCMを駆動するVCM駆動回路、57はスピンドルモータSPMを駆動するSPM駆動回路、58は衝撃検出回路であり、ショックセンサを内蔵し、ファイル装置に加わる衝撃を検出する。衝撃発生時にはデータのリード/ライトの誤りが発生するから、誤動作を防止するためにショック検出時にMCUはリード/ライトを停止するように制御する。59は外部装置とのインタフェース部である。各部はそれぞれバス線60を介してデータ授受可能になっている。

【0029】(B)位置信号発生

#### (a) 第1の位置信号発生方法

図4は信号 PosN、PosQ及びトラック中心からのオフセット信号(位置偏差信号)Paの説明図であり、横方向にトラック番号をとり、縦方向に各信号出力をトラック中心(0.0)からの位置に換算した値(-0.5~0.5)をとっている。説明上、信号 PosQが零クロスする点をトラック番号の境界に定め、トラック中心は信号 PosNが零クロスする地点とする。尚、トラック境界、トラック中心の関係が変化しても以下の説明には本質的な変りはない。又、信号 PosN、PosQを生成するために、ディスク媒体上に位置信号パターンが記録されている。記録方法は、1つのパルスを書くもの、パルス列を書くもの、パルス間隔を変化させるものなど幾つかの種類が提案されている。本発明では、これらの記録方式には依存せず、検出された信号PosN、PosQが2位相でかつ4分の1周期ずれているものを対象にする。

【0030】本発明ではトラック番号の読み誤りを考慮し、以下のように位置信号復調用のデコード表を作成する。すなわち、まず、正常な場合(トラック番号の読み誤りがない場合)と、トラック番号が異常な場合(トラック番号の読み誤りがある場合)とを考え、それぞれのデコード表を作成する。図5(A)は正常な場合のデコード表であり、図26の従来例と同一のデコード表である。このデコード表は、①図4に示すように、連続する2つのトラックを1/4トラック幅づつ(1)~(8)の8区画に分割し、②それぞれの区画において信号PosN、PosQの絶対値の小さい方を選択すると共に、③極性を適宜変えて繋げることにより、トラック幅の周期で交番する右上がり鋸歯状のオフセット信号Paを作り、④このオフセット信号にトラック番号を加算して位置信号(其他位 50

置からの絶対位置信号)を発生するようになっている。 【0031】図5(B)はトラック番号を誤って読み込んだ場合において、正しい位置信号を発生するためのデコード表である。トラック番号の読み誤りは、隣接するトラックから読み込んだトラック番号を現トラック番号

12

トラックから読み込んだトラック番号を現トラック番号とみなすことにより生じる。例えば、トラック番号が昇順になるようにヘッドが移動している場合において、現トラックTiの直前のトラックTi-1で読み込んだトラック番号を現トラックTiのトラック番号とすることによりトラック番号の読み誤りが生じる。そして、この場合には、ヘッドはトラックの中心に関して直前のトラックTi-1側に存在する。又、トラック番号が降順になるようにヘッドが移動している場合において、現トラックTiの直前のトラックTi+1で読み込んだトラック番号を現トラックTiのトラック番号とすることによりトラ

ック番号の読み誤りが生じる。そして、この場合には、

ヘッドはトラックの中心に関して直前のトラックTi+1

【0032】以上から、トラック番号の読み誤り時にお 20 ける復調は、区画(1)~(8)のどの区画の復調を行っているかを考えて、その区間が隣接する2つのトラックのうちのどちら側に近いかにより、正常な場合のデコード表における位置信号にそれぞれ±1.0を加算して図5

側に存在する。

(B) に示すデコード表を作成する。尚、図4において、ヘッドがトラック中心に関して左側に存在する場合には、すなわち、区画(1),(2),(5),(6)に存在する場合には、トラック番号は正常時に比べて1少ないから、+1する。又、ヘッドがトラック中心に関して右側に存在する場合には、すなわち、区画(3),(4),(7),(8)に存在30 する場合には、トラック番号は正常時に比べて1多いから、-1する。

【0033】ところで、トラック番号の読み取り誤りが発生した場合には、図5 (B)の(1)~(8)に示すPosNの符号、PosQの符号、トラックの偶数/奇数の関係が検出される。例えば、正常にトラック番号が読み取られている場合には、PosNがプラス、PosQがプラス、トラック番号が偶数になることはなく、トラック番号の読み取り誤りである。従って、図5 (A),(B)に示すデコード表を記憶しておき、トラック番号の誤り発生を監視する。そして、トラック番号の誤りが検出されなければ図5 (A)のデコード表を用いて位置信号を発生する。しかし、トラック番号の誤りが検出されれば図5 (B)のデコード表を用いて位置信号を発生する。

【0034】(b) 第2の位置信号発生方法

2つのトラックを1/4トラック幅づつ(1)~(8)の8区 第1の位置信号発生方法では16通りの場合を記憶し、 画に分割し、②それぞれの区画において信号PosN、PosQ かつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発生 がつ、判断しなければならない。このため、位置信号発 を用のプログラムが大きくなり、メモリを相当使う。そこで、第2の位置信号発生方法では、図5の16通りの 論理を圧縮して小さなプログラムで位置信号を発生でき セット信号にトラック番号を加算して位置信号(基準位 50 るようにする。図5 (A), (B) における16通りの

位置信号発生の論理式を、信号PosNを使用する場合と、 信号PosQを使用する場合に分けて論理圧縮すると図6 (A), (B)に示すように論理式の数は総計10通り になる。尚、図6の表中、×は符号がプラスでもマイナ スでも構わないことを意味する。

【0035】次に、以下の2つの関数を定義する。すな わち

sgn(x):x>=0.0ならsgn(x)=1.0, X<Oならsgn(x)=-1.0 even(x):xが偶数ならeven(x)=1.0, 奇数ならeven(x)=-\*

if (abs (N) <=abs (Q)) {

Position=-sgn(Q)\*N+Track:

if(sgn(Q)\*even(Track)>0.0)

Position+=sgn(Q)\*sgn(N)\*1.0;

}else{

Position=sgn(N)\*(Q+even(Track)\*0.5)+Track; (5)

20

(1)はPosNの絶対値がPosQの絶対値より小さいか判断す る処理、(2)は|PosN|≤|PosQ|の場合における位置信号P ositionを発生するための処理である。(3)はトラック番 号の誤読み取りを検出する処理である。(4)は誤読み取 りを検出した場合に、位置信号の増減量Position+を信 号PosN, PosQの符号に応じて決定する処理(1増加、1 減少)である。(5)はPosQの絶対値がPosNの絶対値より小 さい場合における位置信号Positionを発生するための処 理である。

【0037】すなわち、信号 PosNの絶対値が信号 PosQ の絶対値より小さい場合は、①信号PosNの極性を信号 P osQの極性がプラスの時に反転させてトラック番号に加 算して位置信号を発生する。②信号PosNの極性を信号 P osQの極性がマイナスの時には反転せずに、トラック番 号に加算して位置信号を発生する。③又、トラック番号 の誤読み取りを検出した時は、前記位置信号を信号 Pos N, PosQの符号に応じて1増減し、あるいは1減少して 位置信号を発生する。一方、信号 PosQの絶対値が信号 PosNの絶対値より小さい場合には、信号 PosQにトラッ ク番号の偶数、奇数に応じて0.5又は-0.5を加算 し、加算により得られた信号の極性を、信号 PosNがプ ラスの時には反転せず、マイナスとの時に反転してトラ ック番号に加算し、位置信号を発生する。以上のように※ \*1.0

のように、2つの関数sgn(x)、even(x)を定義する。こ の2つの関数を用いると、図6(A)は図7(A)に示 すように論理式が4つに圧縮され、図6 (B) は図7

(B) に示すように論理式が2つに圧縮され、総計6通 りになる。

【0036】図7(A), (B) を更に圧縮すると、結 局は次のようなプログラムを書くことができる(C言語 の書式で記述する。)

(1)

(2)

(3)

(4)

※正常な場合と異常な場合とを考慮して両者を論理圧縮し て最終的なプログラムを生成する。このようにすること で、トラック番号の異常検出に対処しながら、プログラ

ムサイズを小さくすることができ、とくにMCU51の ROM容量に制限がある、小型のファイル装置に有効で ある。

【0038】(c) ポジション感度補正

論理圧縮を考慮に入れた復調方式は以上の通りである。 ところが実際には図8に示すようにリード・ヘッドのコ ア幅Cwとトラック幅Twとの関係により、図9に示すよ うにPosN、PosQの波形が飽和する。この時、PosN、PosQ の飽和の高さrは次の式で表現される。

 $r=0.5 \times (\sim y \mid r=0) / (\mid r=0 \mid n \mid r=0)$ 

また、この影響以外にもADコンバータADCの出力Po sN、PosQの値は、AGCゲインが装置毎に完全に一定で ないのでばらつきが生じる。したがって、いわゆるポジ ション感度ゲインをPosNもしくはPosQに掛けなければな らない。ポジション感度ゲインが正確でなければ、PosN とPosQとの間の乗換え時に、計算された位置に段差が生 じることになる(図27参照)。ポジション感度をPosE rrGainと表現すれば、先に示したアルゴリズムは次のよ うに修正される。

[0039]

if (abs (N) <abs (Q)) {

Position=-sgn(Q)\*PosErrGain\*N+Track:

if(sgn(0)\*even(Track)>0.0)

Position+=sgn(Q)\*sgn(N)\*1.0;

}else{

Position=sgn(N)\*(PosErrGain\*Q+even(Track)\*0.5)+Track:

このようにPosN、PosQにポジション感度を乗算すること により、精度の高い位置決めをおこなうことができる。

【0040】(C) ポジション感度の決定

(a) 概略

先に説明したように、ポジション感度を適正値にしない と位置信号に段差が生じる(図27)。そこで、段差が 生じないようにポジション感度を決定する必要がある。

50 ポジション感度決定するために、本発明では概略以下の

ようにしている。信号PosN、PosQが飽和している場合に おいて、これら信号PosN、PosQ及び差信号(PosN-Pos Q)、和信号(PosN+PosQ)、絶対値の和信号|PosN|+|PosQ| は図10に示すようになる。ここで注目すべきは、信号 PosN, PosQの絶対値が等しくなる地点(トラック中心 から±0.25トラック位置)の位置A~D、換言すれば、 位置信号発生のPosNとPosQの切り替え位置において、和 信号(PosN+PosQ)又は差信号 (PosN-PosQ) が零クロス する点である。

【0041】そこで、本発明では、

①信号 PosN, PosQの和信号 (PosN+PosQ) 及び又は差 信号 (PosN-PosQ) を発生し、和信号及び差信号の少な くとも一方の信号を用いて信号 PosN, PosQの絶対値が 等しくなるトラック上の地点A~Dにヘッドを位置決め する。すなわち、位置信号発生のPosNとPosQの切り替え 点にヘッドを位置決めする。この場合、ヘッドを等速で 移動する必要はない。

②その時の信号 PosN, PosQの絶対値の和信号 | PosN | + | PosQ | を測定し、該測定値が設定値 (= O. 5) と なるようにポジション感度を決定する。

③この場合、信号 PosN及び信号 PosQの一方が飽和する 地点(SANはPosNの飽和領域、SAQはPosQの飽和領 域である)にヘッドを位置決めした時の飽和電圧 r を測 定しておく。そして、トラック中心から±0.25トラック 位置にヘッドを位置決めした時の信号 PosNまたは信号P osQの絶対値が前記飽和電圧 r に略等しいか調べ、略等 しい場合には、その時の信号 PosN, PosQの絶対値の和 信号 | PosN | + | PosQ | をポジション感度の決定に使用 しない。これにより、飽和領域の影響を回避できる。 【0042】(b) 0. 25トラック中心での位置決め方

正確に±0.25トラックで位置決めを行うには、Pos N、PosQの両方を利用して位置決めを行う。図10のよ うにPosN-PosQ及びPosN+PosQを作ると、ちょうど偶数 ・奇数トラックの中心から±0.25トラックで、0ク ロスする波形が得られる。また、PosN、PosQの絶対値を 加算すると、必ず0.5トラック相当の振幅になる。た だし、PosNまたはPosQの飽和領域では O. 5トラックよ りも値が小さくなる。 (PosN-PosQ)、(PosN+PosQ)を用 いて位置信号のデコード表を作成すると区間2,11, 8, 5において、図11に示すようになる。尚、Tェは トラック番号である。又、正常時のデコードにおいて和 信号 (PosN+PosO) 及び差信号 (PosN-PosQ) を1/2 しているのは、これらの信号の傾斜がPosN、PosQの2倍 になっているため、実際の位置信号と同一の傾きにする ためである。又、±0.25しているのは、トラック中心か ら±0.25オフセットした位置で和信号 (PosN+PosQ) 及 び差信号 (PosN-PosQ) が零になるからである。

【0043】又、トラック番号を読み誤った時(異常

16 のである。すなわち、区間2においてはトラック番号を +1誤っているから、正常時の位置信号から1.0を減算 し、区間11においてはトラック番号を-1誤っている から、正常時の位置信号に1.0を加える。又、区間8に おいてはトラック番号を+1誤っているから、正常時の 位置信号から1.0を減算し、区間5においてはトラック 番号を-1誤っているから、正常時の位置信号に1.0を 加える。以上から、図11のデコード表より得られる各 区間の位置信号から目標位置を差し引いてオフセット信 10 号を求め、該オフセット信号が零となるように位置制御 を行なってヘッドを各区間の目標位置に位置決めする。 オフセット信号は区間 2 では(PosN+PosQ)/2となり、区 間11では(PosN-PosQ)/2となり、区間8では-(PosN+Po sQ)/2となり、区間 5 では-(PosN-PosQ)/2となる。そし て、目標位置に位置決めされた時の信号 PosN, PosQの 絶対値の和信号 | PosN | + | PosQ | をそれぞれ測定し平 均値を求める。 | PosN | + | PosQ | の理想値は 0.5で あるから、次式によりポジション感度Spを決定する。

 $S_p = 0.5 / (|PosN| + |Pos0|)$ 【0044】(c) 飽和領域の除去方法

ところが、これだけではまだ不十分である。位置決め精 度が悪い場合、もしくはヘッドのコア幅がトラック幅よ りも大幅に小さい (rが小さい) 時には、 | PosN | + | PosQ | の値は飽和領域の値となり正確に 0.5相当の振 幅が得られていないかもしれない。このような不具合を 回避するために、測定値の値を次のように取捨選択す る。すなわち、

(1)信号PosNの中心a, cで位置決めを行ないその時のP osNの絶対値を測定し、又、信号PosQの中心 b, dで位 置決めを行いその時のPosQの絶対値を測定し、測定値の 最小値を飽和値rとする。

【0045】(2)±0.25トラック中心で位置決めを行 い、 | PosN | + | PosQ | の値を計算する。その際に | Po sN | または | PosQ | の値が飽和値 r に近ければヘッドが 飽和領域に存在しているものとみなして、 | PosN | + | PosO | の値は感度決定に利用せずに捨てる。飽和値 r は 0,25より小さくなることはない。なぜなら、0,25に近い とPosNおよびPosQを利用した、正常な位置誤差の計算が できなくなってしまうからである。また、いくらポジシ ョン感度が補正されていないとはいえ、位置決め精度 は、0.1トラック程度には確保されるので、各位置決め 制御時には、衝撃や偏心の影響が極度に大きくならない 限りは測定に十分な最低限の位置決め精度が確保され

【0046】(d) ポジション感度決定のアルゴリズム (d-1) 全体の処理

図12は本発明のポジション感度決定の全体の処理フロ 一図である。まず、飽和電圧 r を測定し(ステップ10 1)、ついで、通常の位置制御によりヘッドを偶数トラ 時)の位置信号は、正常時の位置信号に±1,0したも 50 ックへ移動させる(ステップ102)。しかる後、ヘッ

ドを偶数トラックの±0.25トラック位置へ位置決めし、その時の信号PosN、PosQの絶対値の和 | PosN | + | PosQ | を測定して保存する(ステップ103)。偶数トラックでの測定が終了すれば、通常の位置制御によりヘッドを奇数トラックへ移動させる(ステップ104)。しかる後、ヘッドを奇数トラックの±0.25トラック位置へ位置決めし、その時の信号PosN、PosQの絶対値の和 | PosN | + | PosQ | を測定して保存する(ステップ105)。【0047】奇数トラックでの測定が終了すれば、測定した | PosN | + | PosQ | の平均値を演算し(ステップ106)、次式

Sp=0.5/(|PosN|+|PosQ|) によりポジション感度を求める(ステップ107)。 【0048】(d-2) 飽和電圧測定処理

図13は飽和電圧測定処理のフロー図である。まず、PosNが零クロスする位置 d、すなわち、偶数トラック中心位置にヘッドを位置決めし(ステップ101a)、 | Pos0 | の最小値を計測する(ステップ101b)。ついて、同様にヘッドを偶数+0.5トラック中心位置 a に位置決めし(ステップ101c)、 | PosN | の最小値を計測する(ステップ101d)。しかる後、PosOが零クロスする位置 b、すなわち、奇数トラック中心位置にヘッドを位置決めし(ステップ101e)、 | PosO | の最小値を計測する(ステップ101f)。ついで、同様にヘッドを奇数+0.5トラック中心位置 c に位置決めし(ステップ101g)、 | PosN | の最小値を計測する(ステップ101h)。以上の測定が終了すれば、測定値の最小値を飽和電圧 r とする(ステップ101i)。

【 0 0 4 9】 (d-3) 偶数±0.25トラックでの | PosN | + | PosQ | の測定処理

図14は偶数±0.25トラックでの | PosN | + | Pos0 | の 測定処理のフロー図である。まず、ヘッドを偶数+0.25トラックへオフセット移動する(ステップ103a)。 ついで、位置信号(PosN+PosO/2+0.25を用いて位置決め 制御を行う(ステップ103b)。位置決め後、PosN、PosOを取り込み(ステップ103c)、 | PosN | および | PosO | が両方とも飽和電圧 r 以下であるかチェックし(ステップ103d)、以下でなければ、ステップ103aに戻り以降の処理を繰り返す。 | PosN | および | PosO | が共に飽和電圧 r 以下であれば、 | PosN | + | PosO | を測定し、複数回の値を積算する(ステップ103e, 103f)。

【0050】ついで、PosN、PosOのみを利用した通常の位置決め制御へ戻し、ヘッドを偶数-0.25トラックへオフセット移動する(ステップ103g)。ついで、位置信号(PosN-PosO/2-0.25を用いて位置決め制御を行う(ステップ103h)。位置決め後、PosN; PosOを取り込み(ステップ103i)、 | PosN | および | PosO | が両方とも飽和電圧 r 以下であるかチェックし(ステップ103j)、以下でなければ、ステップ103gに戻り

以降の処理を繰り返す。 | PosN | および | PosQ | が共に 飽和電圧 r 以下であれば、 | PosN | + | PosQ | を測定 し、複数回の値を積算する(ステップ103k, 103 m)。

【0051】(d-4) 奇数±0.25トラックでの | PosN | + | PosQ | の測定処理

図14は奇数±0.25トラックでの | PosN | + | Pos0 | の 測定処理のフロー図である。まず、ヘッドを奇数+0.25 トラックへオフセット移動する(ステップ105a)。 10 ついで、位置信号- (PosN+Pos0/2+0.25を用いて位置決め制御を行う(ステップ105b)。位置決め後、Pos N、Pos0を取り込み(ステップ105c)、 | PosN | およ び | Pos0 | が両方とも飽和電圧 r 以下であるかチェック し(ステップ105d)、以下でなければステップ10 5aに戻り以降の処理を繰り返す。

【0052】 | PosN | および | PosQ | が共に飽和電圧 r 以下であれば、 | PosN | + | PosQ | を測定し、複数回の 値を積算する(ステップ105e, 105f)。つい で、PosN、PosQのみを利用した通常の位置決め制御へ戻 し、ヘッドを奇数-0.25トラックへオフセット移動する (ステップ105g)。ついで、位置信号- (PosN-PosQ /2-0.25を用いて位置決め制御を行う (ステップ105 h)。位置決め後、PosN、PosQを取り込み(ステップ1 05 i)、 | PosN | および | PosQ | が両方とも飽和電圧 r以下であるかチェックし(ステップ105j)、以下 でなければ、ステップ105gに戻り以降の処理を繰り 返す。 | PosN | および | PosQ | が共に飽和電圧 r 以下で あれば、 | PosN | + | PosQ | を測定し、複数回の値を積 算する(ステップ105k,105m)。尚、上記のア 30 ルゴリズムを全部実現すると確実ではあるが、シーク回 数が多く測定に長い時間が必要になる。したがって、そ のような場合には、幾つかの測定を省くことができる。 例えば、rの測定は1ケ所のみ、 | PosN | + | PosQ | の 測定は2ケ所のみというようにする。

【0053】(e) ポジション感度決定処理との並行処理 アルゴリズムは上記に記した通りであるが、±0.25トラ ック中心に位置決めを行っている時に外部から衝撃を受 けた場合は、位置がPosNまたはPosQの飽和領域に入って しまい、位置制御が不安定になる危険性がある。従って PosN及びPosQを用いた通常のデコードを並行して行なっ て現在の位置を常に監視しておき、飽和領域に入ったと き、通常の位置制御により±0.25トラック中心に位置決 めし、再度 | PosN | + | PosQ | の測定を行なうようにす る(ステップ103a, 103g; 105a、105 g)。また機械共振の影響等により位置制御が不安定に なる現象が起きる可能性がある。したがって、±0.25ト ラック中心で静止させる位置信号計算アルゴリズムの他 に通常の位置制御における位置信号を並行して計算して おき、大きく位置がずれた時には、ポジション感度決定 50 の測定を一時中断する。そして、代わって通常の位置制

御を行なって整定待ちを行ない、整定後、ポジション感度の決定処理を再開する。このようにすることで、 | Po sN | + | PosQ | の測定中に衝撃を受けた場合などには、測定を中断し、以後、すみやかに衝撃に対応して測定を再開することが可能になる。

#### 【0054】(f) 位置制御系の設計

ゲインが過多・過少になれば、制御系、特に位置制御系 の安定性を損なってしまう。例えば、ヘッドコア幅が± 10%、トラック幅も±10%の誤差を持っていたとす ると、(ヘッドコア幅)/(トラック幅)の値のばらつ きは、-18%~+22%にもなってしまう。したがっ て、AGCのゲイン変動等の検出系の誤差を±5%、ボ イスコイルモータVCM駆動アンプのゲイン等の出力系 の誤差をやはり±5%、VCMの加速度定数(BL/ m)を±20%、と仮定すると、先のヘッドコア幅・ト ラック幅のばらつきと合わせてゲイン変動は-41%~ +62%にもなってしまう。これは、4dBゲイン余有 が確保されなけばならないことを意味する。したがっ て、位置制御系の設計は制限を受ける。このような問題 を解決するために、ポジション感度補正を行う前と後と で、制御系の構成を変更する。ポジション感度補正前に は、応答特性は若干犠牲にしてもゲイン変動に対しては 十分に強い制御系を設計する。一方、ポジション感度補 正後には、応答特性を重視した制御系の設計に変更す る。

【0055】図16は位置制御系のブロック線図であり、61は目標位置と観測位置との差に応じた電流指令を出力する演算部、62は補償器、63はボイスコイルモータである。ボイスコイルモータVCMは電流を与えられて磁気ヘッドを目標トラックへ移動させるものであ 30り、磁気ヘッドの位置 y は次式のように電流 u の二重積分に比例した形で表現される。

 $y = (BL/m) \iint u d t^2$ 

ただし、Bは磁束密度、Lはコイル長、mはコイルの重量である。上式をラプラス変換して、初期値を0とおけば、

# $(y/u) = (BL/m s^2)$

と表現される。このように、電流→位置の関係式はラプラス演算子sを利用して、上式のように表現される。制御対象であるVCMの特性がラプラス演算子sで表現さ 40 れるように、制御を行なう補償器の特性もラプラス演算子sで表現することができる。

【0056】図16の位置制御系、すなわち目標トラックに追従している時の制御において、補償器32の構造はリードラグ・フィルタ形式の場合、

K(s+a)/(s+b)

となり、PIレギュレータとリードラグを合わせた形式 では、

K { (s+a) /s} · { (s+b) / (s+c) } となり、PIDレギュレータ形式の場合には  $K(s^2+as+b)/s$ 

となる。その他、オブザーバを利用した形式もある。 尚、実際には連続系でなく離散系であるので、双一次変 換やz変換等を利用して、離散化してMCUのプログラ ムとして利用される。このような式中の変数a~cを設 計する。その場合の設計の基準として応答が速いことを 優先するのか、ゲイン変動に対して強いことを優先する のかにより、変数の値の設定方法が異なる。また、ある 時にはリードラグ、ある時にはPIDのように、補償器 の構造そのものを変化させることもできる。

20

【0057】制御系の特性を評価する手段としては、図17に示す閉ループ特性を考えるとよい。図17のブロック線図では、目標値rと観測値yとの誤差に、コントローラー(補償器)のフィルタC(s)をかけてプラント(制御対象)P(s)に与え、観測値yをフィードバックする。このブロック線図から次式が導かれる。

y=[CP/(1+CP)]r+[P/(1+CP)]w<sub>1</sub>+[1/(1+CP)]w<sub>2</sub> このことから、制御目標、外乱w<sub>1</sub>, w<sub>2</sub>が観測値 y に与 える影響は、以下の式で表現される。

20 y/r = CP/(1+CP) (閉ループ, Closed Loop, 相補感度 関数)

y/wi = P/(1+CP) (外乱特性)

y/w2 = 1/(1+CP) (圧縮特性、感度関数)

目標値 r の変動に対する応答を調べる時には閉ループ特性を使い、衝撃等の加速度外乱に対する応答を調べる時には外乱特性を使い、ディスク媒体の偏心のような位置に加わる外乱の影響を調べる時には感度関数を使えばよい

【0058】ボイスコイルモータVCMの制御の場合に は

となる。ループ特性としては以上の閉ループ特性の他に

r:目標位置・目標速度

wi:衝撃・摩擦力・FPC反力

w2:トラックの偏心・検出回路ノイズ

Open Loop特性 (開ループ特性、一巡伝達特性) と呼ばれるものある。制御系を設計する場合には、これらの特性を設計することに他ならない。単に追従が速いばかりではなく、上に挙げたような外乱についても詳細に検討して、影響を最小限に抑えるような設計が必要になる。【0059】図18は開ループ特性のBODE線図であり、θは位相余有であり、サーボ帯域の周波数 foでの位相、すなわちー180度よりも何度大きいかを示すものである。位相余有が0度の時には制御系は発振するので、十分大きくする。又、Gはゲイン余有であり、位相余有が0度の時のゲインを示す。ゲイン余有が0dBならば制御系は発振する。従って、ポジション感度補正時における位置制御系のゲイン余有を十分に大きな値とすることで、ポジション感度補正時における大きなゲイン変動に対しても位置制御系が安定に動作するようにす

50 る。そして、ポジション感度を補正した後で、既に設計

してある位置制御系になるように位置制御系を変更し。 あるいは、その他の特性も考慮にいれて、実際の位置制 御系の設計を行う。

【0060】(f) ゲイン変動が大きい場合における配慮極端にゲイン変動が大きくなりすぎて、予め仮定しているゲイン変動の範囲を越えてしまう場合がある。その時には、まず従来のようにして、速度制御をおこない、ポジション感度を求める。ポジション感度が異なる場合でも、トラック番号は一致しているので、全体でみれば位置制御の時よりもポジション感度の影響を受けずらく、速度制御が制御不能に陥る危険性が少ない。しかし、もちろん速度を作りだす基準は観測された位置であるから、その位置が不正確である以上、速度制御も安定しない。その位置が不正確である以上、速度制御も安定しない。その位置信号の発生基準が移った時を捉えて | PosN | + | PosQ | の値を求め、

(ポジション感度) = 0.5 / (|PosN| + |PosQ|) として計算を行う。そののち、ポジション感度を大まかに合わせてから、再度本発明の方法によりポジション感度を補正する。

【0061】(g) ポジション感度の保存

ファイル装置の生産時には、媒体上に位置信号パターン を記録する。その際にポジション感度の値を測定し、フ ァイル装置の固定記憶部、例えば媒体(ディスク)あるい は書替え可能なROM、バッテリーバックアップRAM 等に書き込む。このように測定したポジション感度を固 定記憶部に記憶しておけば、ファイル装置の起動時に毎 回ポジション感度を測定する必要がなく、起動時間を短 縮でき、電源を投入してからデータをリード・ライトす るまでの時間が短縮できる。ファイル装置自身が測定結 30 果をファイル装置の固定記憶部に記憶することもでき る。その場合には、固定記憶部に標準的なデータか、測 定済のデータかの識別のための符号を設けて区別する。 このようにして測定された値は、いわばヘッドのコア幅 のばらつきに比例する。したがって、各装置毎にその値 を外部から読み出し、ヘッドのコア幅の管理に利用する ことができる。

【0062】(h) 複数の区間でのポジション感度 ポジション感度の測定を行う場所は、1箇所でなくても良い。それよりも複数の場所で測定を行なったほうがより正確に位置決め制御が行える。図19に示すように、ヘッドHDは円弧状にディスクDK上のトラックを横切る。このため、ディスクの内外周においてヘッドが横切るトラック幅が変化し、又、内外周でヘッドの浮上量等が変化し、ヘッド出力レベルが変動する。すなわち、ディスクの内外周でポジション感度が異なる。そこで、トラックを複数の区画に分割し、各区画毎にポジション感度を測定して記憶し、ヘッド位置に応じたポジション感度を用いて信号 PosN及び信号 PosQを補正する。例えば、0~2000までトラックが存在した場合に、全部

の区間を4分割して、0~499、500~999、1000~1499、1500~2000と分ける。そして、各区間でのポジション感度を、代表点を選んで(例えば、250、750、1250、1750トラックで)測定し、その代表点でのポジション感度を区画に対応してメモリに格納し、各区間内でポジション感度を共通に利用する。

22

【0063】又、トラック位置とポジション感度の特性 カーブはヘッドのコア幅のバラツキ等によりファイル装 置によって若干異なるが、カーブの形状は図20に示す ように同じである。そこで、ある1つの媒体(ディス ク) について測定した各区画毎のポジション感度を各フ アイル装置に記憶しておく。そして、対象ファイル装置 の所定区画におけるポジション感度を測定し、測定した ポジション感度と記憶してある前記区画のポジション感 度の差を演算する。しかる後、記憶してある他の区画の ポジション感度を該差分平行移動して対象ファイル装置 の各区画におけるポジション感度を求めるようにする。 このようにすれば、1箇所のポジション感度の決定動作 を行うだけで、、全区画のポジション感度が決定でき る。以上、本発明を実施例により説明したが、本発明は 請求の範囲に記載した本発明の主旨に従い種々の変形が 可能であり、本発明はこれらを排除するものではない。 [0064]

【発明の効果】以上本発明によれば、信号 PosN, PosQ の絶対値の大小、信号 PosN, PosQの符号、トラック番号及び該トラック番号の誤読み取りを考慮してヘッドの位置信号を復調するようにしたから、トラック番号を読み誤っても正しく位置信号を発生することができ、又、位置信号発生用の論理を簡単にしてメモリの節約ができる。更に、信号 PosN及び信号 PosQにポジション感度を乗算して補正した値を用いて位置信号を発生すれば、位置決め精度を向上することができる。本発明によれば、信号 PosN, PosQの和信号 (PosN+PosQ) 及び又は差信号 (PosN-PosQ) を発生し、和信号及び差信号の少なくとも一方の信号を用いて信号PosN, PosQの絶対値が等しくなるトラック上の地点にヘッドを位置決めし、その時の信号 PosN, PosQの絶対値の和信号

| PosN | + | PosQ |

の を測定し、該測定値が設定値となるようにポジション感度を 度を決定するようにしたから、正確にポジション感度を 決定でき、従って、位置決め精度の向上を図ることができる。

【0065】本発明によれば、信号 PosN及び信号 PosQの一方が飽和する地点にヘッドを位置決めした時の飽和電圧を測定しておき、信号 PosN, PosQの絶対値が等しくなるトラック上の地点にヘッドを位置決めしたときの信号 PosNまたは信号PosQの絶対値が前記飽和電圧に略等しいか調べ、略等しい場合には、その時の信号 Pos 50 N, PosQの絶対値の和信号

| PosN | + | PosQ |

をポジション感度の決定に使用しないようにしたから、信号 PosN、PosQが飽和しても飽和する付近の値を除外することにより正確にポジション感度を決定することができる。

【0066】本発明によれば、ポジション感度の決定処理と並行して、信号 PosN、 PosQ及びトラック番号を用いて位置信号を発生する処理を行なうようにしたから、衝撃等によりヘッド位置が飽和領域に移動したり、対象トラックをはずれた場合であっても、該位置信号によりヘッドを所期の位置に位置決めして、引き続きポジション感度の決定処理を行なうことができる。本発明によれば、ゲイン変動に対して安定に動作するようにファイル装置のヘッド位置制御系を構成してポジション感度の決定を行ない、ポジション感度決定後に実際のヘッド位置制御系に戻すようにしたから、ポジション感度決定制御中にゲインが大幅に変動する事態が生じてもポジション感度決定の制御を継続することができる。

【0067】本発明によれば、決定したポジション感度を電源を切断しても記憶状態を保持する固定記憶部に記 20 憶し、ファイル装置の起動時に該ポジション感度を読み出して信号 PosN及び信号 PosQを補正するようにしたから、一度ポジション感度を決定しまえば、以後、ポジション感度を決定する制御を省略することができる。本発明によれば、トラックを複数の区画に分割し、各区画毎にポジション感度を測定して記憶し、トラック位置に応じたポジション感度を用いて信号 PosN及び信号 PosQを補正するようにしたから、ヘッド位置に応じたポジション感度を用いて信号 PosN及び信号 PosQを補正するようにしたから、ヘッド位置に応じたポジション感度を用いて信号 PosN、PosQの補正ができ、正確な位置制御を行なうことができる。 30

【0068】本発明によれば、所定の媒体について測定した各区画毎のポジション感度を記憶しておき、対象ファイル装置の所定区画におけるポジション感度を測定し、測定したポジション感度と記憶して前記区画のポジション感度の差を演算し、記憶してある他の区画のポジション感度を該差分平行移動して対象ファイル装置の各区画におけるポジション感度を求めるようにしたから、ポジション感度の決定制御を短時間で簡単に行なうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の原理説明図である。

【図2】磁気ファイル装置の構成図である。

【図3】MCUにおけるROM記憶内容説明図である。

【図4】PosN、PosQ及びオフセット信号の説明図であ

る。

【図5】位置信号復調のためのデコード表である。

【図6】PosNを使用する場合と、PosQを使用する場合の デコード表である。

【図7】図6のデコード表を更に論理圧縮したデコード表である。

【図8】ヘッド幅とコア幅の関係図である。

【図9】飽和する場合のPosN、PosQの信号説明図である。

10 【図10】PosN、PosQの合成波形図である。

【図11】 ポジション感度測定時における位置決めのためのデコード表である。

【図12】ポジション感度決定の処理フローである。

【図13】飽和電圧測定の処理フローである。

【図14】偶数±0.25トラックでの|PosN|+|PosQ|の測 定処理のフローである。

【図15】 奇数±0.25トラックでの|PosN|+|PosQ|の測 定処理のフローである。

【図16】位置制御系のブロック線図である。

【図17】一般的な制御系のブロック線図である。

【図18】オープンループの特性図である。

【図19】ディスク内外周でのポジション感度の相違説明図である。

【図20】ポジション感度とトラック位置の関係説明図 である。

【図21】磁気ディスク装置の構成図である。

【図22】セクタの構成図である。

【図23】信号PosN、PosQ及び位置偏差信号の 説明図である。

30 【図24】サーボ回路の構成図である。

【図25】PosN、PosQの信号波形図である。

【図26】位置信号のデコード表である。

【図27】 ポジション感度のずれによる問題点説明図で ある

【図28】従来のポジション感度決定の説明図である。

【図29】従来のポジション感度決定の説明図である。 【符号の説明】

41・・ヘッド

42・・ボイスコイルモータVCM

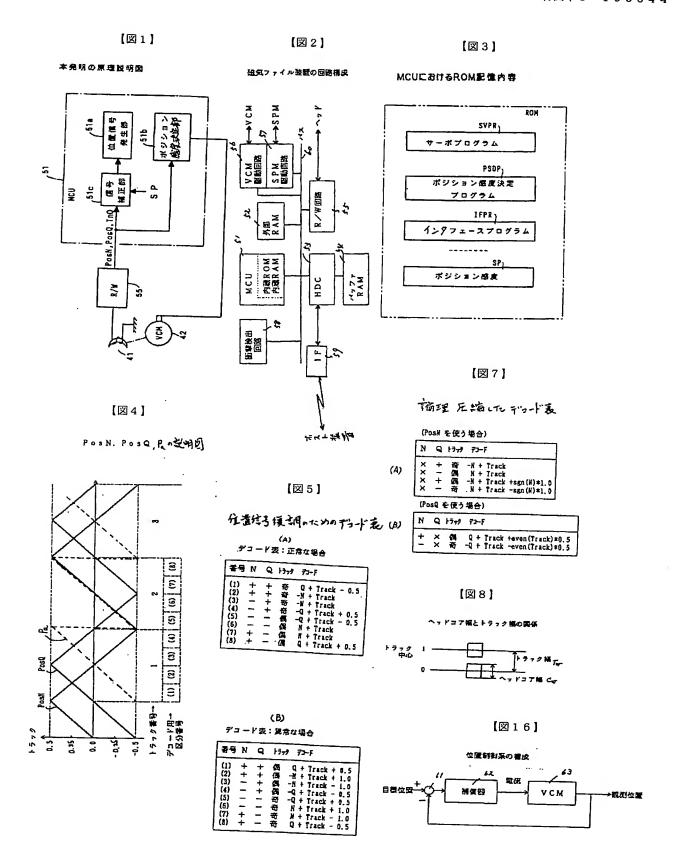
40 51・・マイクロ・コントローラ・ユニットMCU

5 1 a・・位置信号発生部

51b・・ポジション感度決定部

51 c・・信号補正部

55・・リード・ライト回路



【図6】

3 4

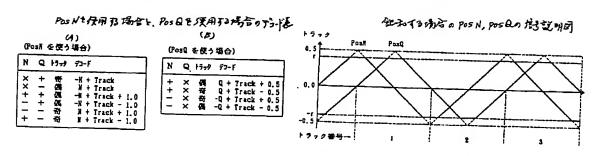
5

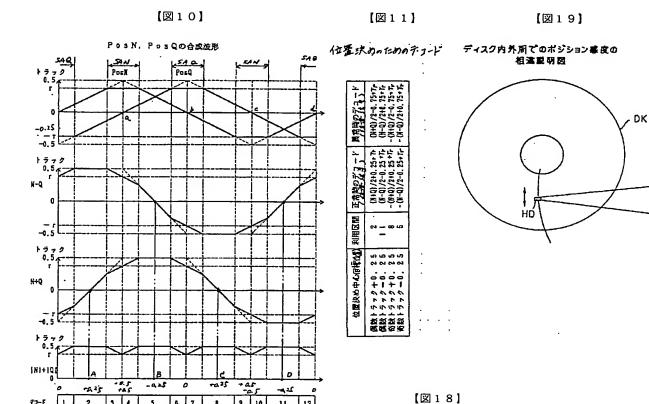
6 7

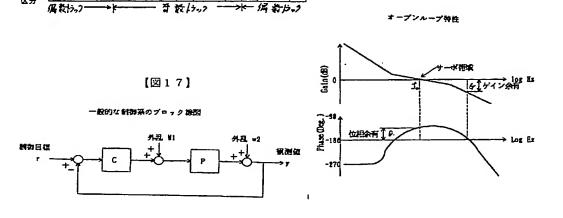
8

9 10

【図9】



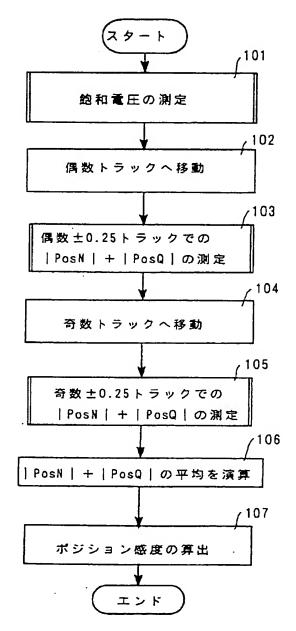




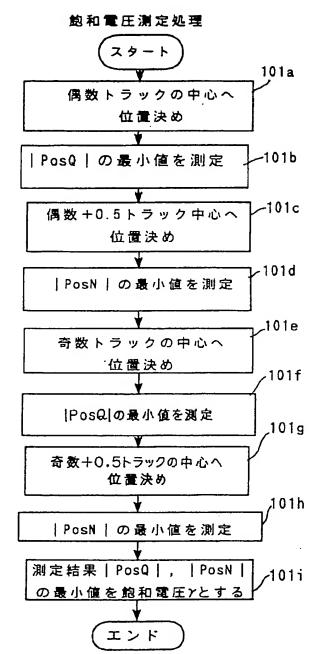
-11

【図12】

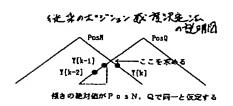
ポジション感度決定の処理フロー



【図13】



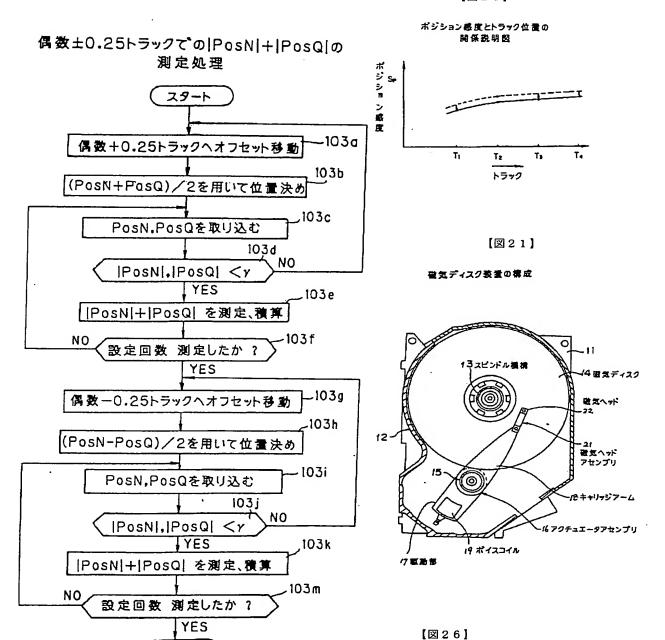
【図28】



【図14】

エンド

【図20】



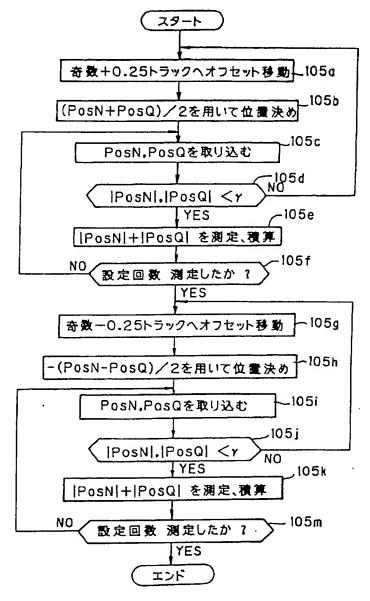
化发作和的扩充

(デコード表: 正常な場合)

吞号	N	Q	トラック	₹3-F
(1)	+	+	₹	Q + Track - 0.5
(2)	+	+	審	-N + Track
(3)	_	+	寄	-H + Track
(4)	-	+	奇	-Q + Track + 0.5
(5)	_	_	Ä	-Q + Track - 0.5
(6)	-	_	æ	N + Track
(7)	+	_	4	N + Track
(a)	+	_	æ	Q + Track + 0.5

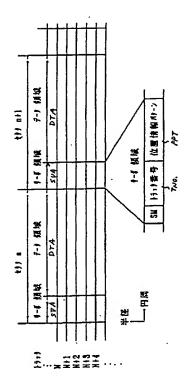
【図15】

奇数±0.25トラックでの|PosN|+|PosQ|の 測定処理



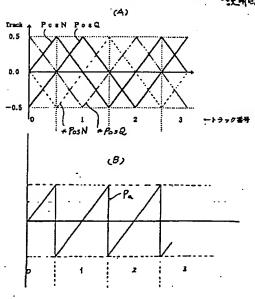
【図22】

279 n 構成图



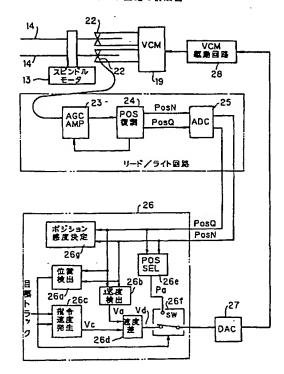
[図23]

信号 Pas N, Pas Q及以住置编盖性的



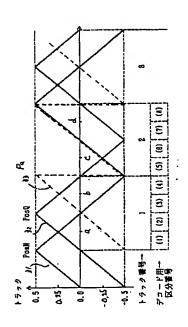
【図24】

サーボ回路の構成圏



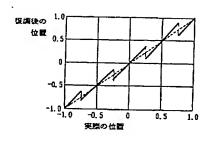
【図25】

Pos N, Pos Q



【図27】

ポジション感度のずれ(ポジション膨度が過多の場合)



[図29]

# 送れなジョンがを注意状の受明日

